

会 議 要 録

会議の名称	第4回 第6次村山市総合計画策定審議会
開催日時	令和7年2月4日（火）18：30～20：30
開催場所	農村環境改善センター1F 小集会室
構成員	出席者：（別紙名簿） 事務局：村山市政策推進課 受託者：ランドブレイン(株)
次第	1 開会 2 あいさつ(会長) 3 議事 （1）第6次村山市総合計画基本計画（案）について （2）その他 4 閉会
質疑応答等	
議事(1)	第6次村山市総合計画基本計画（案）について ・事務局より説明 （「将来像」の実現に向けた主要施策） 特になし （基本目標1について）
土屋常義委員	P3に記載の成果指標にある合計特殊出生率について、基準値がR4数値の1.09、目標値はR4県平均値1.32としているが、現時点ではR5県平均値が1.22という数値が出ている中で、R4県平均値1.32を目標値とすることでよろしいのか。また、村山市の値も最新値を基準値として設定してはどうか。
事務局	基本構想における将来目標人口の設定時に、合計特殊出生率をR4県平均値1.32まで引き上げていくこととして目標人口を算定していたため、それとの整合を図るため、目標値はR4県平均値としたところだが、基準値及び目標値については事務局で再検討したい。
早坂委員	P8（2）生活環境の成果指標「市営バス及び乗合タクシーの利用者数」に関して、市営バス運行にあたっては、朝村山駅に行く子ども達が電車に乗るような通学時間帯のことはどの程度考慮されているのか。
事務局	もともとの市営バスの運行にあたっては、高齢者の買い物や通院での利用が主な目的であるため、通学利用にはマッチしていない便もある。
早坂委員	通学利用に関しては山形交通バスでも対応しない時間帯でもあるので、市のバスなどでカバーしてもらえれば利用者も増えると思う。教育分野のことなのか、公共交通の維持・確保に該当するのかはあるが、政策目標のように「住みたい・住みつづけたいまちの構築」という観点から、そういった視点も重視すべきではないか。
高橋会長	具体的施策の文言については、5年間の計画であるため詳細な内容は記載できないが、運行体制の見直し等により、より利用しやすい公共交通網の構築を図っていく、という幅広いニュアンスで記載しているところかと思う。 （基本目標2について）
末永委員	P16（2）都市基盤の成果指標として「中心市街地における空き家除却件数」があるが、除却後の土地活用も含めたものすべきではないか。

事務局	この成果指標にある空き家除却については、跡地の利活用が決まらなると補助金が出ない制度であるため、ご指摘のような仕組みになっているものとご理解いただきたい。
高橋会長	今のご説明については、計画書中にも注釈などで理解をいただく工夫をお願いしたい。
高橋衛委員	P 28（３）交通安全・安全安心の成果指標の「交通事故死傷者数」について、目標値（R11）の負傷者数 70 人以下／件とあるが基準値を上回る設定というのはどうなのか。
事務局	この目標数値については、村山市交通安全計画の中で設定された値を位置付けている。
高橋衛委員	例えば、高齢化が進み高齢者の運転手が増えるからとか、何か具体的な根拠があるのか。
事務局	将来的な更なる高齢化の状況が加味されていると考えられる。
高橋衛委員	そのような具体的な根拠を更に明記してもらえるとわかりやすいのではないかと。
高橋会長	記載が可能かどうかも含めて再度検討してもらいたい。 （基本目標 3 について） 特になし （基本目標 4 について） 特になし （基本目標 5 について）
工藤委員	P 66（１）学校教育の「取組方針」３点目について、生活習慣の確立と食育だけでは、体力・運動能力の向上には不十分だと思われるので、運動面の向上を図る記述（例えば、「・体育」を追加するなど）が必要ではないかと。 P 67 に記載の成果指標に「学校に行くのは楽しいと回答した児童生徒の割合」があるが、子ども達が「楽しい学校」と感じられるように引き続き努力してほしい。学校の先生方の努力の成果でもあり、保護者や地域の皆さんの支えがあつて子ども達が「学校が楽しい」「明日も学校に行きたい」となっていくのであり、それが、学校の目標でもある。大事な指標の一つとしてぜひがんばってほしい。
奥野委員	P 66（１）学校教育の現状と課題の関係で、幼い子どもがメディアに触れる時間が長いと脳に与えるダメージが大きいという研究がある。家庭の問題ということかもしれないが、スマートフォンやゲームをする時間を減らすような対策の必要があると考えている。IT やデジタル教育とは相反することになるが、子どもがメディアを使用する時間のコントロールについては、今後の大きな課題になるのではないかと。同じく P 69 に記載の具体的施策（６）、２点目に薬物乱用防止の記載があるが、私自身も、子どもの薬物使用にかかる危険性について学んだ経験があるので、同様に、子どもがメディアを使い過ぎた場合の危険性についても教育していく必要があると思う。
柴田委員	今のご意見に関して、おそらく仙台市教育委員会と東北大学の共同研究があつて、仙台市教育委員会のホームページに内容が掲載されているので参考にいただければと思う。
土屋常義委員	メディア教育の必要性は子ども自身もそうだし、保護者にもそういった危険性を認識していただく必要がある。市、学校、そして保護者も含めて、皆でこの問題に取り組んでいくべきだろう。

	先ほど工藤委員からご意見いただいたところで、「自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合」というのもあるが、小中学生までは現状で 85%もあって結構なことだが、一般に日本の高校生になると、こういった割合は3割程度になってしまう。韓国だと7割程度あるということで、国の違いというのもあるが、この村山市の数値はすごいことだし、今後も大切にしていきたいと思う。
事務局	今頂いた内容については、この総合計画を踏まえた部門別計画に村山市教育振興基本計画というものがあるので、その中に盛り込んでいければと思う。
末永委員	P71（2）学校運営の成果指標として「コミュニティ・スクール導入学校の割合」があるが、基準値（R5）が0%ということは無いのではないかな。県立村山産業高校ではコミュニティ・スクールを導入していると思う。
事務局	村山市立学校分の値としている。 （基本目標6について） 特になし （全体再確認：その他）
芦野委員	P48～49（1）観光誘客の関係で、最近、村山市の特産品を県外の方が注文し、喜ばれていることが多いと感じられる。成果指標にある観光客数の他に、村山市の特産品を県外に発送している数値などもあればいいのではないかな。
高橋会長	実際、観光協会などでそういった数値を把握しているのかどうか。おそらく把握は難しいと思われる。
大山拓也委員	P71（2）学校運営の成果指標に記載されているコミュニティ・スクール導入学校の割合について、基準値0%から目標値100%というのは大きな変化であるが、これは新たにコミュニティ・スクールを設置するのか、あるいは現在ある学校の中に段階的にコミュニティ・スクールの導入を図るといったことなのか。
奥野委員	学校統合の準備委員会の中では、西地区の4校において再来年度から進めていくようだ。
半田委員	P67（1）学校教育に関する成果指標について、先ほどご意見があったように「学校が楽しい」という部分で高い値となっているのは素晴らしいことだと思う。なお、全国学力学習状況調査の正答率という指標について、基準値と目標値が同じであるがこれでよろしいのか。
高橋会長	先ほどご議論があった子どものメディア利用（スマートフォン、タブレット）に関して、今は学力低下につながるように認識されていても、今後のマスメディアの本流がそちらにあるとすると、子どもたちからこういったメディアを遠ざけるのではなく、いかに適正に使用できるかということが必要になってくると考えられる。 この基本計画の中に、先ほどの問題も含めどのように表記すればいいのかな。大事な内容ではあるけれども、市の学校教育担当はじめ、学校の先生方にも、どのように考えているのかを調査し議論をしてもらい、慎重に進めていただきたいと思う。
事務局	今ご意見いただいた子どものメディア利用の関係では、P70（2）学校運営の具体的施策（2）の3点目として、「子ども自身が情報やセキュリティに関する知識・技能を理解し、それを順守することや、情報モラルの大切さに気づき考えながら身につけていくため、情報モラル教育の充実を図ります」としている。 成果指標の全国学力学習状況調査の正答率について、基準値と目標値の設定につい

土屋常義委員	ては再確認の上、記載の通りであれば設定の考え方について補記させていただければと思う。 これまで作業部会の限られた時間の中で、慌ただしくも、さまざまな角度から話ができ、ここに基本計画案として提示できたと思っているが、この会議で終わったわけではないので、今後の実現に向けて、庁内各部署で情報共有し、計画の推進に努めていただければと思う。
高橋会長	これで基本目標 6 まで通して、ご意見、ご質問、ご提案、大変貴重なお話をいただき、感謝申し上げます。答申に向けても計画推進のところはぜひお話させていただければと思う。今の点も踏まえて改めて、修正すべき点は修正いただき、事務局の方に対応をお願いしたい。 他、特になければこれにて会を終了とさせていただきたい。
議事(2)	その他 ・事務局より今後のスケジュールについて ・各「分野」に関連するSDGS 17 ゴールの追加について 以上